

外観



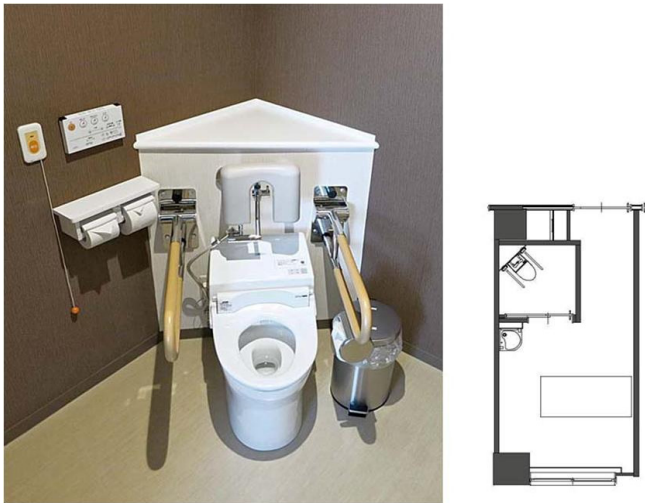
手前の建物が南館。奥に見える本館には、交流・生きがいをテーマに「回復の丘」と名づけられた屋上庭園があり、患者さまだけでなく地域の方々も参加できるイベント会場として使用されている。

デイコーナー・サイン



デイコーナーに設置されているソファは立ち上がりのリハビリにも使用されている。病室のサインには、母体となる仁医会が運営する保育園の園児が描いたイラストが使用されている。

個室 トイレ



大便器をコーナー部に斜めに設置。これにより、左右勝手違いに対応でき、両側から介助ができるようにしている。(トイレ内寸法: 1850 × 1730mm)

1F 多機能トイレ



1Fの多機能トイレは、車いす使用者や小さなお子様連れ、オストメイトなどに配慮してオストメイト対応トイレバックとベビーシートを設置。車いすのフットレストから壁を守るために床材を300mm立ち上げている。

特室 トイレ



L型手すり、はね上げ手すりを備える大便器には、さらにパウチ・しびん洗浄水栓付背もたれを設置。「尿流量カップ」を洗浄する時などに使用されている。(トイレ内寸法: 2350 × 1250mm)。

特室 浴室・洗面所



洗面所には車いす対応の洗面カウンターを採用。広い開口でつながる浴室は、安全面に配慮して数ヶ所に手すりを設置している。

2・3F 多機能トイレ



2・3Fの多機能トイレには、低リップタイプの小便器を設置。小便器後方の壁は小便ハネに配慮して、掃除しやすい素材を採用。大便器にはパウチ・しびん洗浄水栓付背もたれを設置している。

浴室



自宅に戻れるための訓練として住宅用のユニットバスを採用(1600 × 2000mm)。浴室内の移動やバスタブへの出入り、立ち座りなどの動作や様々な障害の方に対応できるように手すりを多数設置している。

4床室 洗面所



木の温もりを感じさせる4床室の病室は家具で間仕切りされている。洗面所には患者さんの歯みがきセットなどを収納できる収納棚を設置。衛生面を考慮して通気穴が設けられている。

4床室 トイレ



各器具の配置は、TOTOバリアフリーラボでトイレ内の動作検証を行って決定している。手洗器は介護の邪魔にならないように斜めに設置している。(トイレ内寸法: 1850 × 1960mm)

建築概要

名 称	あいちリハビリテーション病院 南館
所 在 地	愛知県西尾市江原町西柄1-1
施 主	医療法人 仁医会
設 計	株式会社佐藤総合計画
設計協力	株式会社フジタ
施 工	株式会社フジタ
竣工年月	2014年2月

水まわりの特長

<施設の特徴>
あいちリハビリテーション病院は、脳卒中・整形外科疾患などの患者さんが、ご自宅での生活や職場で仕事ができるように、機能を回復させるための入院型リハビリテーション病院。2014年に療養病棟(南館)を増築し、より幅広い領域をカバーする総合リハビリテーション病院として新しくスタートした。立つ・歩くといった機能訓練とともに、朝の着替え、洗面、排泄、食事など、入院生活そのものが社会復帰、在宅復帰へとつながるようなプログラムを実施している。

<トイレの特長>
トイレ空間はゆったりとしたスペースを確保。リハビリテーション病院として求められる高度な機能性・利便性・安全性を実現するとともに、住宅のような温かみのある空間となっている。プラン作成に当たっては、実際の使用シーンを想定し、TOTOバリアフリーラボでトイレ内の動作検証を行い、介助がしやすいレイアウトの検討を行った。大便器周りにはL型手すりやはね上げ手すり、パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれなど、トイレ使用中の身体を支える器具を設置。また、多機能トイレは車いす使用者や小さなお子様連れ、オストメイトなどさまざまな使用者に配慮した設備を完備している。